

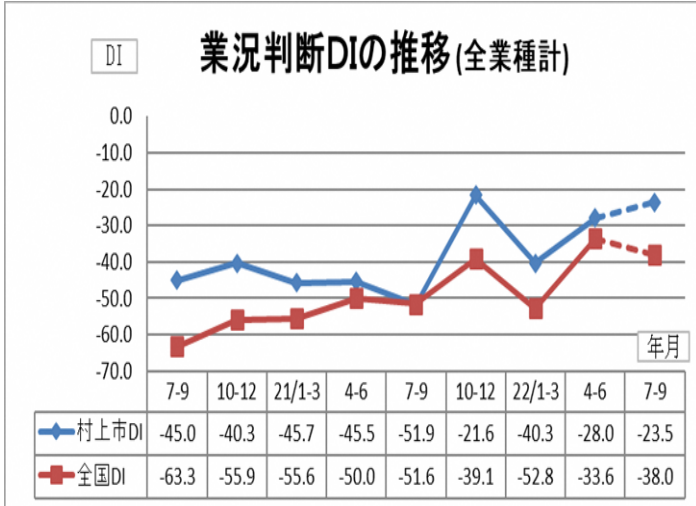


村上市 景況調査報告

〈令和4年4-6月期の実績・令和4年7-9月期の見通し〉

『コロナと諸物価高騰で依然として厳しいが持ち直しの動きがみられる』

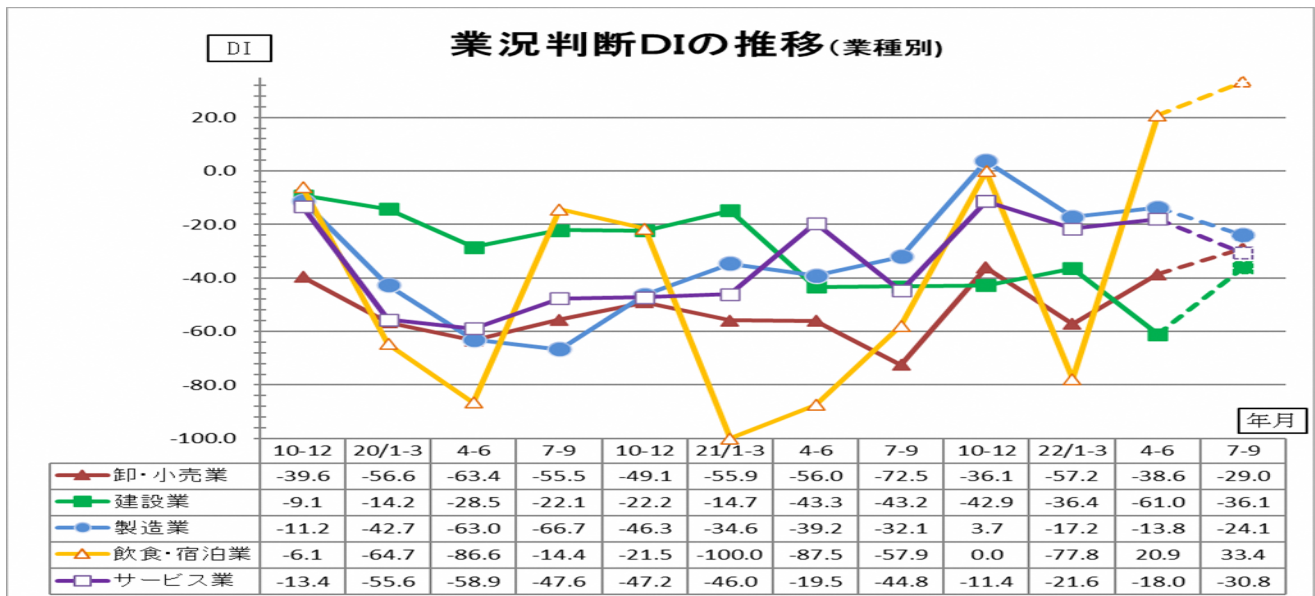
■村上市の業況(全業種計)



今期(4-6月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(1-3月期)と比べ12.3%上昇し▲28.0となった。前期における今期予測(▲15.9)より12.1%低下し前年同月比では17.5%上昇した。全国DIは19.2%上昇し▲33.6となった。

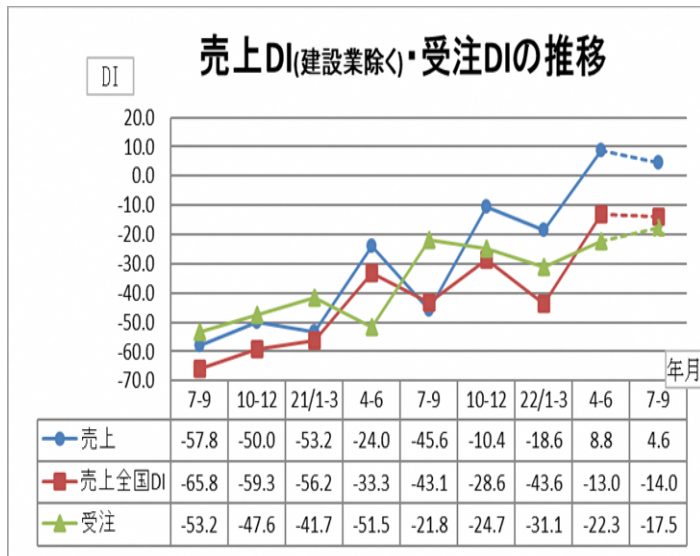
来期(7-9月期)については、4.5%上昇し▲23.5となる見通し。全国DIは4.4%低下し▲38.0となる見通し。

業種別に見ると建設業以外で持ち直し、中でも飲食・宿泊業では、大きく改善している。これは、停滞していた中での元気づくり商品券の発行や県民割などの施策が功を奏しているようだ。見通しとしても、飲食・宿泊業は期待を込めてさらに改善する見込み。



■各業種の動向

卸・小売業	元気づくり商品券やコロナに対する行動制限緩和により客足が伸びたというコメントもあるが、相変わらずの感染リスク低減による外出控えによって、客足が戻らないというコメントも多い。 見通しとしては、物価高の長期化が懸念され、引き続き不安視される声が多いが、村上大祭の開催は原動力になりそう。	飲食・宿泊業	元気づくり商品券や県民割により入込客が増加したというコメントが多い。DI値のグラフを見ても分かる通り、大幅な改善となっている。 見通しとしては、エネルギーなどの諸物価高騰が懸念されるが、元気づくり商品券やGo To事業に期待を込めて、さらに良くなるとのコメントも多い。
建設業	資材の納期が遅延している上、資材の高騰もあるが、その上昇分については顧客を思うと価格に転嫁できていないという企業もある。受注が減少している上、競争も激化している。 見通しとしては、受注が増加するというコメントが多く見受けられ、業況判断DIも右肩上がりを示している。	サービス業	サービス業全体としては回復している。細かく見ると観光業は旅行需要が回復傾向。自動車修理業は大雪の影響により除雪機械修理増。タクシーは人の動きがなく売上減。 見通しとしては、各祭礼の復活に期待を寄せる声はあるものの、燃料費高騰など経費がうなぎ上りなことからDI値のグラフは減少を示している。
製造業	原油高騰、資材高騰のコメントが過去で一番多い。特に包装資材ナイロンは、段階的に複数回の値上げがあった。 見通しとしては、受注が回復見込みというコメントが数件あるが、資材調達難・物価上昇を懸念している企業が多い。		



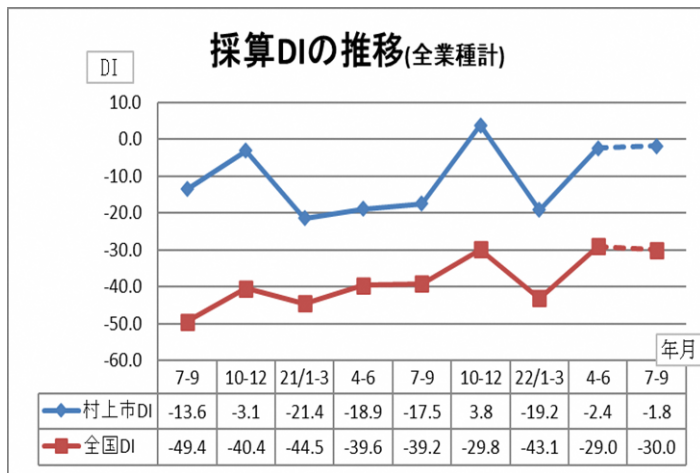
今期の売上DI(建設業除く)は、前期と比べ、27.4ポイント上昇し8.8となった。前期における今期予測(▲12.4)より21.2ポイント上昇し前年同月比では32.8ポイント上昇した。全国DIは30.6ポイント上昇し▲13.0となった。

来期については、4.2ポイント低下し4.6となる見通し。全国DIは1.0ポイント低下し▲14.0となる見通し。

今期の受注DI(建設・製造業)は、前期と比べ、8.8ポイント上昇し▲22.3となった。前期における今期予測(▲24.5)より2.2ポイント上昇し前年同月比では29.2ポイント上昇した。

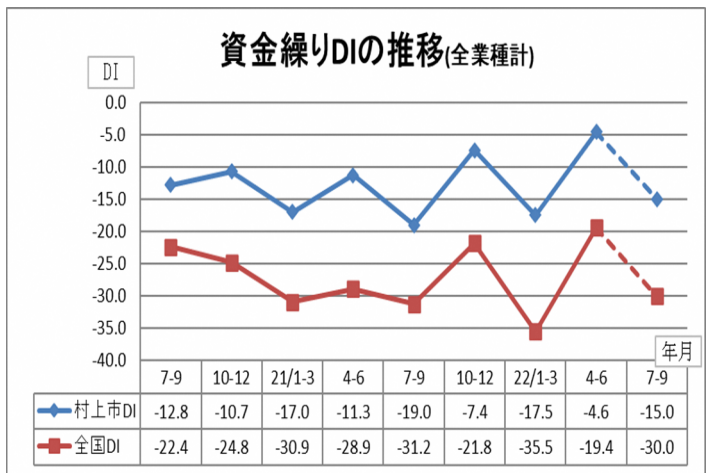
来期については、4.8ポイント上昇し▲17.5となる見通し。

【受注DIの内訳】	前期	今期	来期
・建設業	▲45.4	▲34.3	▲34.3
・製造業	▲14.3	▲7.2	▲3.6



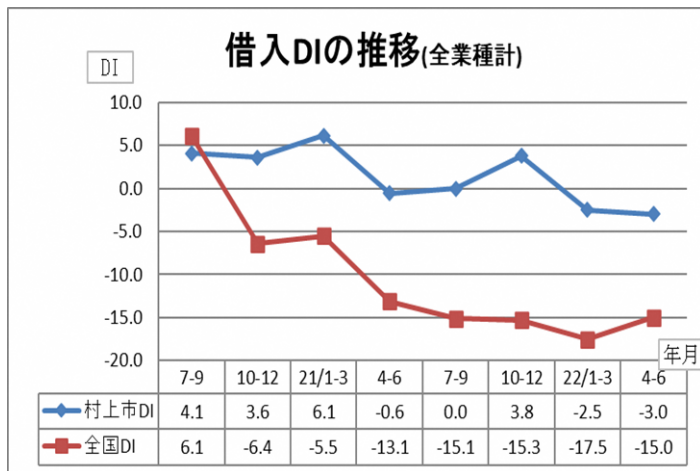
今期の採算DI(全業種計)は、前期と比べ、16.8ポイント上昇し▲2.4となった。前期における今期予測(▲10.0)より7.6ポイント上昇し前年同月比では16.5ポイント上昇した。全国DIは14.1ポイント上昇し▲29.0となった。

来期については、0.6ポイント上昇し▲1.8となる見通し。全国DIは1.0ポイント低下し▲30.0となる見通し。



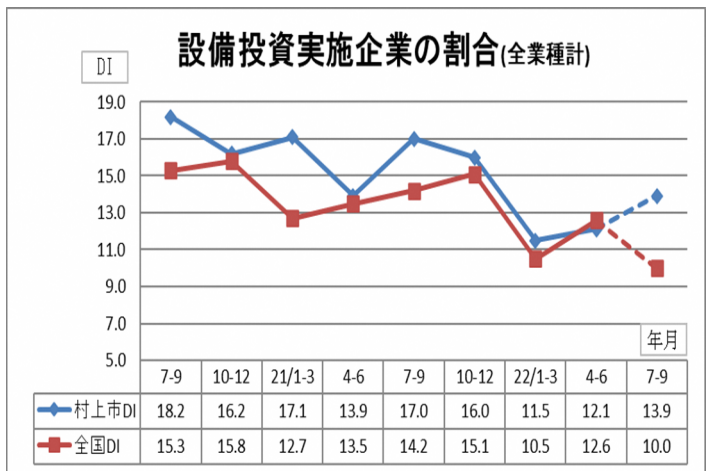
今期の資金繰りDI(全業種計)は、前期と比べ、12.9ポイント上昇し▲4.6となった。前期における今期予測(▲12.7)より8.1ポイント上昇し前年同月比では6.7ポイント上昇した。全国DIは16.1ポイント上昇し▲19.4となった。

来期については、10.4ポイント低下し▲15.0となる見通し。全国DIは10.6ポイント低下し▲30.0となる見通し。



今期の借入DI(全業種計)は、前期と比べ、0.5ポイント低下し▲3.0となった。全国DIは2.5ポイント上昇し▲15.0となった。

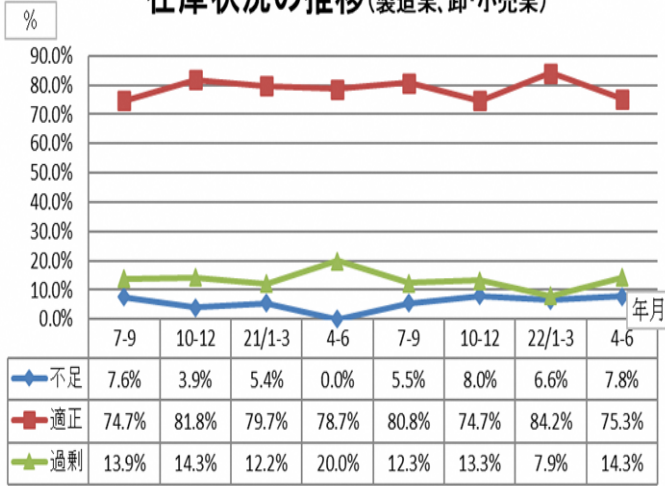
【借入DIの内訳】	前期	今期
・容易になった	1.8%	→ 1.7%
・変わらない	34.4%	→ 32.0%
・難しくなった	4.3%	→ 4.7%



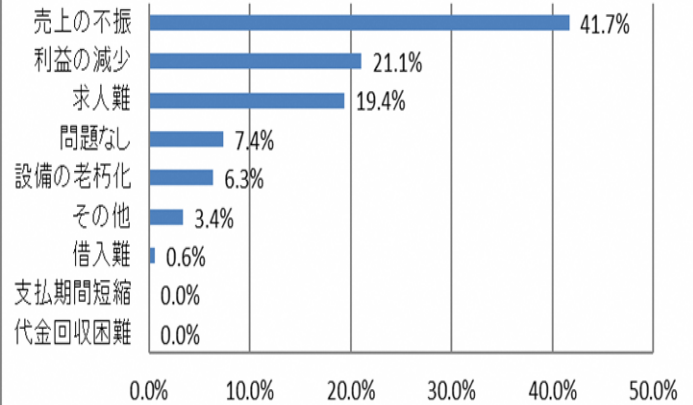
今期の設備投資実施企業の割合(全業種計)は、前期と比べ、0.6ポイント上昇し12.1となった。前期における今期予測(12.3)より0.2ポイント低下し前年同月比では1.8ポイント低下した。全国DIは2.1ポイント上昇し12.6となった。

来期については、1.8ポイント上昇し13.9となる見通し。全国DIは2.6ポイント低下し10.0となる見通し。

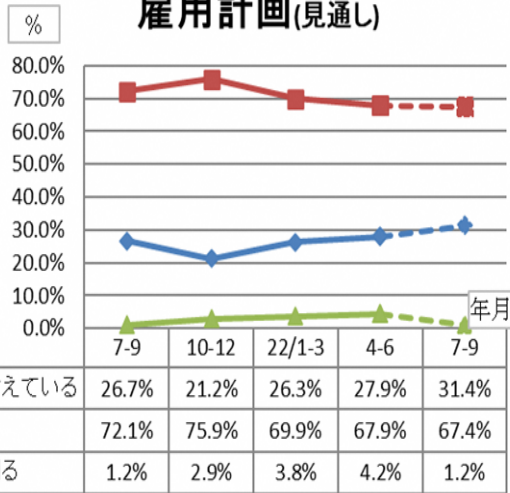
在庫状況の推移(製造業、卸・小売業)



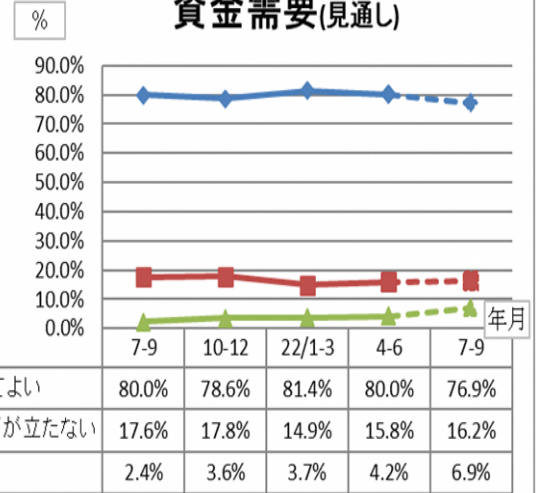
経営上の問題点



雇用計画(見通し)



資金需要(見通し)

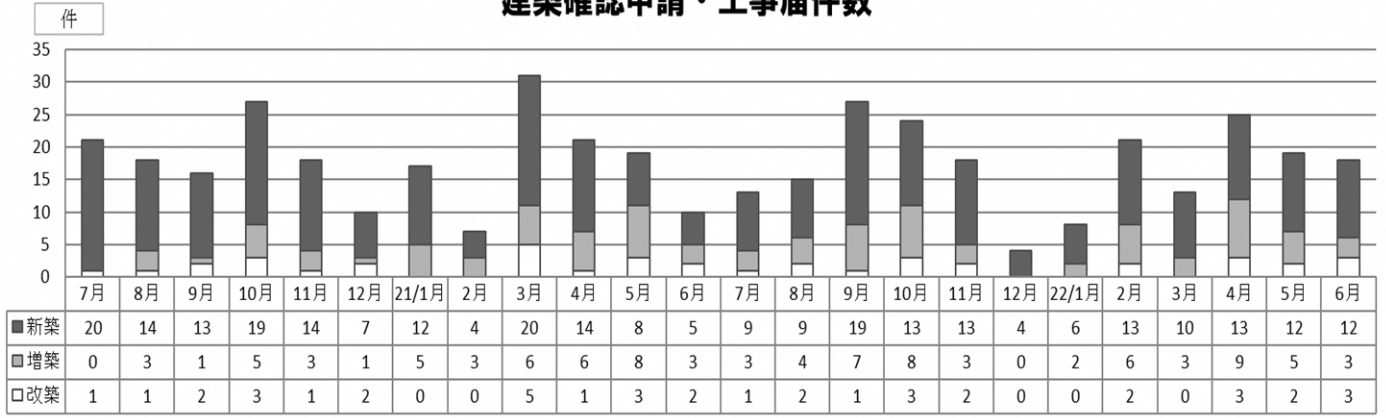


■原油価格高騰への対策

昨今の原油価格高騰への対策として行ったことを次のうちから1つ選んでください。また、その理由について教えてください。

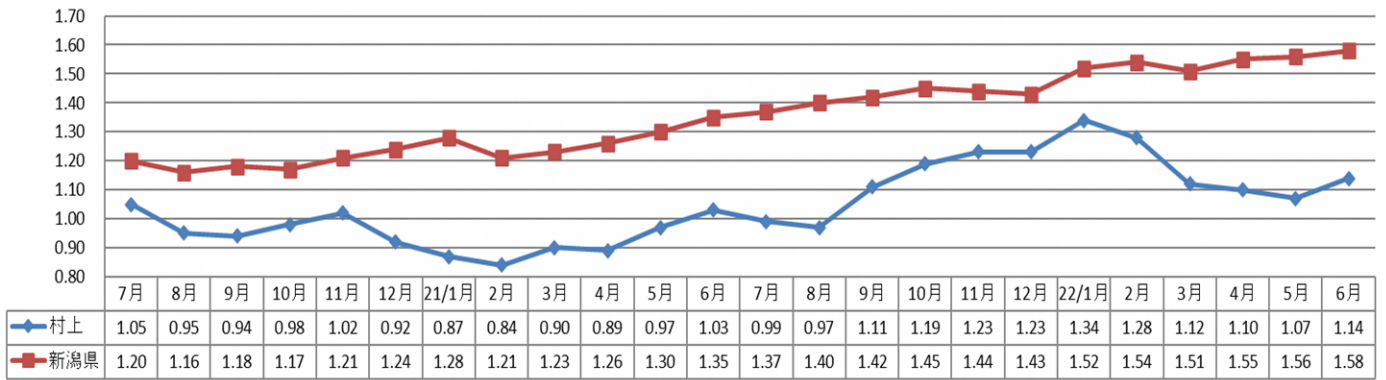
選択肢	件数	割合	選択肢の主な理由(抜粋)
①価格転嫁(値上げ)	63	36.4%	・値上げできたものとできないものがある。 ・仕入の値上げが何度もあるので製品への転嫁が追い付かない。 ・内容量を少なめにして実質的な値上げを行っている。
②仕入先の変更	9	5.2%	・一部市外の利用。掛け率の安い方を選択。送料の価格も併せて検討。
③物価高騰の影響の少ない商品・サービスの提供への切替	4	2.3%	・価格転嫁ができない業種なので各方面の最良の方法を模索中。
④省エネ設備への入替	5	2.9%	・エアコンの買い替え(電気量の削減)などを行った。 ・空調のエネルギーをA重油から電気に変更した。 ・設備の老朽化・作業スペース縮小のため、コンパクトで省エネタイプの設備に入れ替 ・燃費の良い車輌に入れ替え。
⑤行政機関等の支援制度を利用	11	6.4%	・各種補助金活用(事業復活支援金、LPG補助金等) ・借り入れを実施した。
⑥特に何もしていない	74	42.8%	・社内で努力中。 ・値上げしたら売れなくなる。 ・様子を見るが高騰が続けば値上げもやむなし。
⑦その他	7	4.0%	・温泉熱を利用している。 ・節約。無駄をなくす。少しでも安い電力会社に契約を切り替えた。 ・値上交渉の準備中。 ・従来よりも見積有効期限を短期(一か月)に設定することにより、仕入単価の変動に伴う金額の再提示を行っている。

建築確認申請・工事届件数



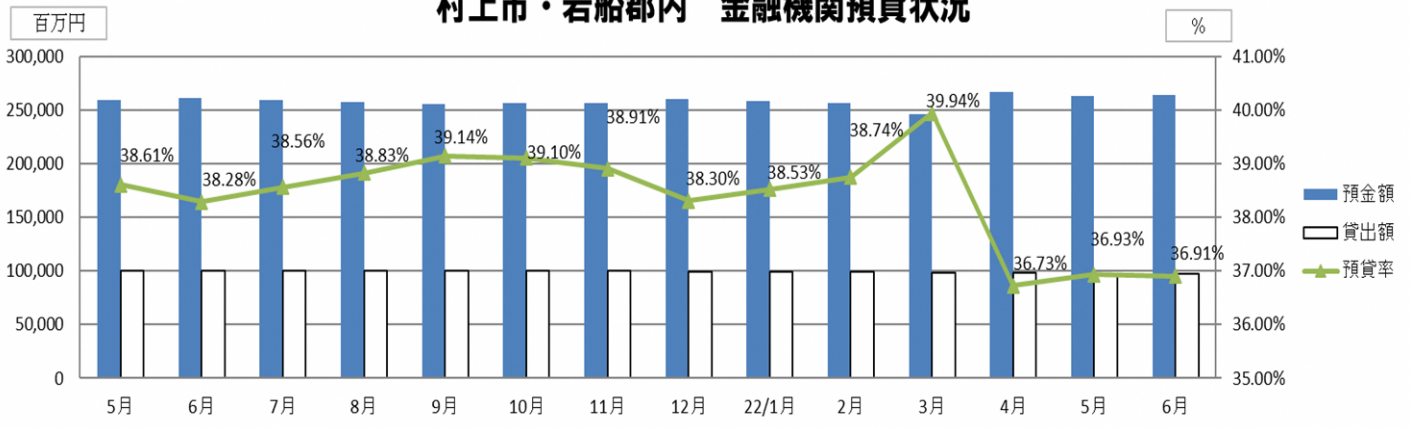
※本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。

村上職安管内 有効求人倍率(パートを含む全数)



※上記有効求人倍率は、季節調整値再計算により改訂した数値を記載しています。

村上市・岩船郡内 金融機関預貸状況



調査概要

調査時期	2022年6月中旬～2022年7月上旬
調査対象	村上市内事業所200社 有効回答数:175社(回収率87.5%) [業種] 卸売・小売業62社、建設業41社、製造業30社、飲食・宿泊業21社、サービス業46社 [地区] 村上地区104社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区19社、山北地区23社
実施機関	村上市地域経済振興課、村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会
分析機関	村上商工会議所
参考資料	全国中小企業動向調査結果(小企業編)／日本政策金融公庫 (2022.4-6実績・2022.7-9見通し)

DI値(景況判断指数)=[増加・好転などの回答割合]-[減少・悪化などの回答割合]

(※売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する)